



(題字 小黑千足 学長)

第382号

(平成 8 年10月号)



▲ 外国人留学生と教職員との懇談会（見学旅行）での記念撮影：国立乗鞍青年の家



## 目 次

関係法令 ..... 3

諸 会 議 ..... 3

## 学 事

◆ 朝鮮学会大会を開催 ..... 4

人 事 異 動 ..... 5

平成 9 年度富山大学における学部・大学院の  
整備充実計画について② ..... 5

教養教育の見直しについて ..... 8

## 学 内 諸 報

◆ 高等学校長との懇談会を開催 ..... 10

◆ 外国人留学生と教職員との  
懇談会（見学旅行）を実施 ..... 10

◆ 本部自衛消防隊が消防訓練を実施 ..... 11

◆ 経済学部で「外国人留学生と学部指導教官  
との懇談会」を開催 ..... 11◆ 学内レクリエーション（釣大会、  
ビーチボール大会、ゴルフ大会）を実施 ..... 12

◆ 海外渡航者 ..... 13

◆ 外国人来訪者 ..... 14

## 職 員 消 息

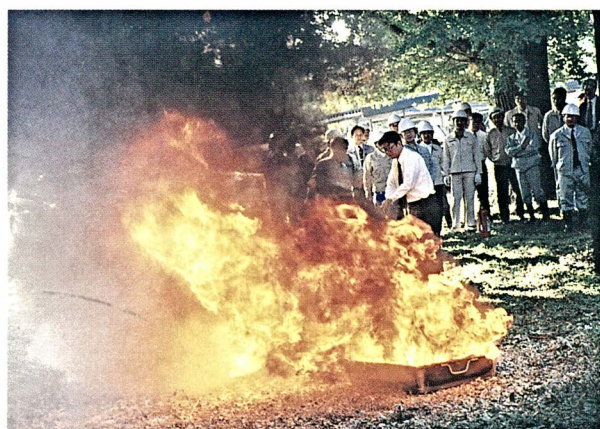
◆ 住所変更（住所表示変更） ..... 15

◆ 新任者住所 ..... 15

◆ 改姓 ..... 15

◆ 訃報 ..... 16

主 要 行 事 ..... 17



▲ 本部自衛消防隊消火訓練（平成 8 年10月23日）



▲ 平成 8 年度共済組合主催事業「秋の立山散策旅行」（家族も参加）：室堂平（平成 8 年10月12日）

## 関 係 法 令

### (省 令)

- 勤労者財産形成促進法施行規則等の一部を改正する省令（労働37）（平 8 .10. 1 官報第1988号）

### (規 則)

- 人事院規則 9 -17（俸給の特別調整額）の一部を改正する人事院規則（人事院 9 -17-58）（平 8 .10. 1 官報第1988号）
- 人事院規則 9 -55（特地勤務手当等）の一部を改正する人事院規則（同 9 -55-39）（同上）
- 人事院規則10- 4（職員の保健及び安全保持）の一部を改正する人事院規則（同10- 4 - 5）（同上）

### (告 示)

- 大学入学に関し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定の一部を改正する件（文部162）（平 8 .10. 7 官報第1992号）
- 大学入学に関し専修学校高等課程について文部大臣が個別に指定した件（同163）（平 8 .10.11 官報第1995号）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成 7 年 4 月 1 日から変更した件（同164）（同上）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその名称を平成 8 年 4 月 1 日から変更した件（同165）（同上）
- 大学入学に関し文部大臣が個別に指定した専修学校高等課程についてその課程を平成 8 年 3 月31日をもって廃止した件（同166）（同上）

## 諸 会 議

### 第 2 回入学試験実施委員会（10月 1 日）

#### （審議事項）

- (1) 学部入学定員確保に係る欠員補充方法等について
- (2) 合格者名簿等の報道機関等への提供について
- (3) 平成 9 年度富山大学入学者選抜健康診断実施要項（案）について

### 第 3 回学寮委員会（10月 4 日）

#### （審議事項）

- (1) 寮生からの要求事項（調理師及び炊婦）について
- (2) その他

### 第 1 回保健管理センター委員会（10月15日）

#### （議 題）

- (1) 富山大学の学生相談の体制について
- (2) その他

### 第 6 回部局長懇談会（10月18日）

#### （議 題）

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

### 第 6 回評議会（10月18日）

#### （審議事項）

- (1) 学生の懲戒について
- (2) 学生の除籍について
- (3) その他

### 第 6 回事務協議会（10月22日）

#### （議 題）

当面の諸課題について

## 第 2 回生涯学習教育研究センター運営委員会（10月23日）

## （議 題）

- (1) 教官人事について
- (2) その他

## 第 2 回放射性同位元素総合実験室運営委員会（10月28日）

## （審議事項）

- (1) 平成 9 年度営繕経費要求について
- (2) 平成 9 年度一般設備費要求について
- (3) その他

## 第 3 回入学試験実施委員会（10月28日）

## （審議事項）

- (1) 学部入学定員確保に係る欠員補充方法等について
- (2) 合格者名簿等の報道機関等への提供について
- (3) 入学試験実施委員会専門委員会委員等について

## 第 4 回入学試験委員会（10月29日）

## （審議事項）

- (1) 平成 9 年度富山大学学生募集要項（追加）（案）について
- (2) 学部入学定員確保に係る欠員補充方法等について
- (3) 合格者名簿等の報道機関等への提供について

学

事

## &lt; 第 47 回 朝鮮学会大会を開催 &gt;

去る10月5日（土）、6日（日）の2日間にわたり第47回朝鮮学会大会が、黒田講堂及び人文学部語文棟において、約120人の参加者を得て開催されました。

5日行われた公開講演会では、まず、学会長の植田平一天理大学長の挨拶があった後、小黑千足学長から「日本の文化は朝鮮からあるいは朝鮮を経由してもたらされたものが多いが、そのことを我々がどれほど理解しているか甚だ心許ない。現在・将来の国際関係の発展のため、日本の各地で朝鮮学会が開かれ、多くの人々の理解が深まることを期待している。」との祝辞がありました。次いで、今回招聘された韓国の学者（李琬鎬韓国精神文化研究院教授、徐大錫ソウル大学校教授、鄭萬祚国民大学校教授）の紹介が行われた後、藤本幸夫人文学部教授の「朝鮮書誌学の諸問題」と題する講演、秋山進午大手前女子大学教授の「東北アジアの初期金属器文化」と題する講演に移りました。藤本教授の講演は、朝鮮の木版印刷による出版物に関するもので、版木に文字を彫った職人、刻工の名前などを手掛かりに出版の年代や背景を探る方法を紹介したものです。両講演とも、平素あまり耳

目に触れることの少ない貴重な話で、黒田講堂ホールに集まった人々は、熱心に聞き入っていました。

6日は、韓国招聘学者の研究発表をはじめ、語学・文学・歴史学など多数の充実した研究発表があり、活発な質疑応答が行われました。また、研究発表の後、朝鮮語教育報告会が、朝鮮語教育に携わる教員を中心に約70人の参加者を得て開かれ、活発な意見交換が行われました。



▲ 講演を行う藤本教授

# 人 事 異 動

| 異動区分 | 発令年月日     | 氏 名     | 異 動 前 の 所 属 ・ 官 職 | 異 動 内 容             |
|------|-----------|---------|-------------------|---------------------|
| 採 用  | 8. 10. 14 | 岩 城 時代美 |                   | 事務補佐員（附属図書館情報サービス課） |
|      | 〃         | 深 谷 信   |                   | 〃 （ 〃 ）             |
|      | 〃         | 大 岸 里 美 |                   | 〃 （ 〃 ）             |
|      | 〃         | 尾 下 成 敏 |                   | 〃 （ 〃 ）             |
| 退 職  | 8. 11. 1  | 福 島 春 代 | 臨時用務員（教育学部作業員）    | 平成 8 年10月31日限り退職した  |
| 死 亡  | 8. 10. 26 | 田 中 大四郎 | 附属図書館情報管理課雑誌情報係長  | 死 亡（公務外）            |

## 平成 9 年度富山大学における学部・大学院の整備充実計画について②

### 理学部及び理学研究科の整備充実計画について

理 学 部 長 風 巻 紀 彦

#### I. 理 学 部

##### 1 地球科学科の改組

理学部では、平成 5 年度の大学改革を機に研究教育体制を一新しました。すなわち、各学科 2 大講座に再編成し小講座の閉鎖性を打破するとともに、環境問題に正面から教育研究面で取り組むために生物圏環境科学科を新設しました。

他方、近年北海道南西沖地震や昨年 1 月の兵庫県南部地震など大規模地震が続発しており、陸上に加えて海底地震関連の教育・研究環境の必要性が急速に高まってきています。このような社会的要請に応えるため、地球科学科を改組し、現行の「地球圏物理学講座」、「地球進化学講座」に加えて、地球科学科に第三の大講座「地球ダイナミクス」を新設、地球科学科の入学定員30人を40人に改訂することを計画しています。（教育学部から学生入学定員10人、教官定員 1 人振替）

これは、平成 5 年度の大学改革以降、教育研究面で著しい進展のある海底地震・海洋地質関係の分野の期待にも応えるものです。とくに、巨大海底地震発生に対する考え方を改める必要性も強調されており、富山県もこの点を非常に重視しております。

なお、教育改革が当初の計画どおり実施されてい

るか否かについては平成 8 年度からテーマを決め自己点検しており、1 クールが終了する平成 9 年度に理学部でも総体的に自己点検評価を行うことにしております。

##### 2 第 3 年次編入学定員の設定（新規）

社会人及び高等専門学校等修了者等のため、新たに理学部共通として第 3 年次編入学10人の定員を設けることを計画しています。

産業構造の変化や社会生活に必要な知識・技術の高度化等に対応し、大学での編入学・社会人特別選抜等に対する潜在的な需要が大きいため、理学部では、昭和62年度から社会人特別選抜を取り入れるなど、職業人の再教育を実施してきましたが、新たに社会人及び高等専門学校等の修了者等のために、第 3 年次編入学定員を設け、社会的要請に積極的に応えることにいたしました。

#### II. 理学研究科

##### 1 生物圏環境科学専攻の新設（入学定員10人）

高度に成熟化した現代社会は、科学技術の成果により築き上げられており、科学技術の進展なくしては、今後の発展は望めません。そのため、理工系の大学院に対し、創造性豊かな若手研究者の育成と同

時に企業等における研究開発活動の中核となり得る高度の専門的職業人養成が求められています。とりわけ、自然科学における先端的研究は技術革新の基盤でもあり、その重要性が増してきているため、必然的に理学研究科への期待が大きくなっています。

平成 9 年 3 月には、生物圏環境科学科の初めての卒業生を世に送り出しますので、生物圏環境科学科の延長として大学院修士課程「生物圏環境科学専攻」の設置を予定しています。近年、特に地球環境についての社会的関心が増大し、環境問題解決の必要性が高まっています。このため、生物圏環境科学専攻では、地球環境の現状把握や生物と環境との相互作用の解明などの基礎的分野から、環境影響評価・環境保全などの応用的諸分野にいたるまで系統的に教育研究を行い、社会の要請に応え得る高度な問題解

決能力を備えた専門職業人の養成を目標としております。

## 2 入学定員の改訂

既設の専攻について入学定員の改訂増 12 人  
(数学専攻 4 人、物理学専攻 4 人、生物学専攻 2 人、地球科学専攻 2 人)

近年は、理工系大学院の高度化と量的拡大への需要が高まっている状況を反映し、約半数の学生が大学院に進学しています。このため、本研究科では全専攻について、社会人の受入れ等を含む入学定員の改訂を計画しています。また、これに伴い教育目標を、従来の研究者養成から高度の専門的職業人養成へと重心を移し、専門的基礎知識と応用能力を習得し得るようにカリキュラムを改善しております。

## 工学部及び工学研究科の改組・整備計画について

工学部長 時 澤 貢

### I. 富山大学工学部の改組・整備計画について

富山大学工学部では、科学技術の進展に伴い学問領域の高度化、学際化及び国際化等に対応するため、平成元年度及び平成 2 年度にわたり、旧 7 小学科(34 小講座制)を 4 大学科(18 大講座制)に改組・再編を行いました。

更に、平成 5 年度には、一般教育と専門教育の継続性、有機性及び効率性を重視し、より創造性豊かな技術者の養成を目的として教養部を廃止し、4 年一貫教育を軸としたカリキュラムの大幅な見直しを行いました。

しかし、①我が国を取り巻く経済、産業情勢の急激な変化に対応する必要があること、②大量生産、大量消費の時代から高付加価値多品種少量生産技術の確立が求められていること、③超高速情報通信ネットワークの整備に伴うマルチメディア社会(高度情報通信社会)に対応する技術者の養成が急務となっていること、④限りある資源の有効利用を図る技術開発が必要であること、⑤人と自然環境との調和を図り、より環境に優しい物質の創出が求められていること及び⑥入試制度の多様化が求められていることから、これら社会的要請に応えるため改組・整備を行うものです。

### 1. 改組の内容

電子情報工学科を従来の電子・電気ハード面と、知能情報のソフト面の分野を分離・拡充し、電気電子システム工学科及び知能情報工学科とする。また、物質工学科と化学生物工学科を統合して物質生命システム工学科とし、機械システム工学科は情報化・電算化による充実を図り、機械知能システム工学科として改組します。

| (改組前) [365]    | (改組後) [415]                      |
|----------------|----------------------------------|
| 電子情報工学科 [120]  | 電気電子システム工学科 [90]<br>知能情報工学科 [80] |
| 機械システム工学科 [90] | 機械知能システム工学科 [90]                 |
| 物質工学科 [80]     | 物質生命システム工学科 [155]                |
| 化学生物工学科 [75]   |                                  |

(注) [ ] 内は入学定員を示し、臨時増募分は含まない。



## 2. 改組後の教育研究内容

| 学 科   | 教 育 研 究 内 容   |
|---|---|
| 電<br>気<br>電<br>子<br>シ<br>ス<br>テ<br>ム<br>工<br>学<br>科 | 電子・通信技術がますます高度化、先端化し、かつ超微細化してきている。また、産業の近代化、一般社会、家庭における電子機器の増加等に伴い電力需要の増加並びに自然エネルギー源の枯渇に伴う新エネルギー開発等に対応するため、電力システム工学、エネルギー変換工学、プラズマ基礎工学、通信伝送工学、システム制御工学、計測システム工学、基礎物性工学、表面エレクトロニクス、極微電子工学、電子デバイス工学に関する分野の教育研究を行う。  |
| 知<br>能<br>情<br>報<br>工<br>学<br>科                     | 高度情報化社会を迎え、情報機器、通信機器等のハード関連技術及び情報の圧縮・伝送技術等のソフト関連技術の高度化・先端化、加えて人間とメディアとのインターフェイス等に関する新技術の開発に対応するため、システム工学、パターン情報処理、自然言語処理、視聴覚情報処理、神経系情報処理、高度通信方法、エージェント構築学、符号化情報学に関する分野の教育研究を行う。   |
| 機<br>械<br>知<br>能<br>シ<br>ス<br>テ<br>ム<br>工<br>学<br>科 | あらゆる産業を支える機械システム技術を、より高度化、効率化するためには、生産機械・加工機械を智能化、システム化する必要がある。また、科学技術の高度化、ミクロ化に対応する機械のシステム化について生産性、安全性及び汎用性等を総合的に研究するため、固体力学、強度設計工学、生産精密加工学、機能材料加工学、熱力学、流体工学、環境数理工学、動的システム設計学、制御システム工学、機械情報計測、応用機械情報に関する分野の教育研究を行う。  |
| 物<br>質<br>生<br>命<br>シ<br>ス<br>テ<br>ム<br>工<br>学<br>科 | 材料工学、プロセス工学、応用化学及び生命工学は、物質の創成及び再利用並びに工業プラント設計等に必要不可欠な安全性、効率性及び環境保全等について総合的に研究する応用工学分野である。当該分野を改組・融合し、新素材、生命工学等を総合的に研究するため、材料物性工学、機能材料工学、材料化学、材料設計工学、応用物性工学、粉体プロセス工学、移動プロセス工学、拡散プロセス工学、反応プロセス工学、プロセスシステム工学、分子設計化学、精密有機合成化学、資源エネルギー工学、分子反応化学、環境分子化学、生体高分子化学、細胞生産工学、細胞物性工学、遺伝子工学、生命分子機能工学に関する分野の教育研究を行う。 |

## Ⅱ. 富山大学大学院工学研究科の整備計画について（入学定員の改訂）

本学大学院工学研究科（修士課程）は、高度な専門知識を修得し、広い視野をもった有能な技術者の養成を目的として、昭和42年に電気工学、工業化学、金属工学、機械工学の4専攻、学生定員36人で発足し、以後、生産機械工学、化学工学、電子工学の3専攻を増設し、入学定員62人に改訂されたが、平成6年度に既設の7専攻を改組し、新たに博士前期課程として電子情報工学専攻、機械システム工学専攻、物質工学専攻、化学生物工学専攻の4専攻が設置され、入学定員も84人に改訂されました。

近年、科学技術の急速な発展に伴い、多くの先端技術が生まれている。また、企業においては、それらの技術をいかに迅速かつ有効に生産ラインに乗せることができるかによって、企業そのものの死活問題にもつながりかねない状況から、各企業からは高度な知識・技術を有し、かつ、学際性・創造性豊かで、企画・応用能力をも持ち合わせた広範な学識を有する技術者の

養成が求められています。

こうした状況から、本学大学院工学研究科修了者を求める企業が急増しており、これらは大企業のみならず県内の企業からも求人の要望が強い。

このような状況を反映して、本学工学研究科への入学志願者も多く、平成8年度には機械システム工学専攻、物質工学専攻及び化学生物工学専攻の入学定員を改訂しました。

電子情報工学専攻については、他の専攻より進学希望者が多く、また、企業からの同専攻修了者の需要も強いことから、これらの要請に応えるため、現在の工学研究科の教育内容を更に見直し、同専攻の入学定員を現在の30人から45人に改訂することを計画しています。

以上の経過及び事由から、本学大学院工学研究科（博士前期課程）は入学定員の改訂増を計画しています。これにより、平成9年度には4専攻で入学定員が111名から126名となる予定です。

## 教 養 教 育 の 見 直 し に つ い て

### カリキュラム等見直し検討小委員会

座 長 岡 村 信 孝

平成 7 年度第 1 回教養教育委員会（平成 7 年 5 月 25 日開催）において、平成 9 年度以降の教養教育の見直しについて検討するため、カリキュラム等見直し検討小委員会が設置されました。この小委員会は、平成 7 年 6 月以降、ほぼ月に 1 回のペースで開催され、その間、各学部及び各部会の意見をお聞きしながら、教養教育の見直しについて 1 年余りにわたって慎重に審議を重ね、平成 8 年 9 月に教養教育委員会に対して答申を行いました。この答申は平成 8 年度第 2 回教養教育委員会（平成 8 年 9 月 13 日開催）において承認を得、これによって平成 9 年度以降、教養教育の見直しに基づく実施が確定しましたので、ここにその内容について教職員にお知らせする次第です。

#### 1. 教養教育の選択科目単位数（経済学部夜間主コースを除く）

現行どおり選択科目の総単位数を 30 単位とし、また内訳についても、教養科目 18 単位、言語表現科目または情報処理科目 2 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位の大枠を維持するが、教養科目 18 単位（現行は教養原論 12 単位、総合科目 6 単位）の内訳については、「教養原論 12 単位又は 14 単位、総合科目 6 単位又は 4 単位、計 18 単位」に変更する。

なお、自由単位については現行どおりとする。

#### 2. 教養原論の履修方法（経済学部夜間主コースを除く）

##### 2-1. 選択科目の履修系列指定

教育学部については現行どおり 3 系列履修を可とするが、人文学部については経済、理、工学部と同様に他系列（人文学部は社会科学系・自然科学系、経済学部は人文科学系・自然科学系、理学部、工学部は人文科学系、社会科学系）を履修させるものとする。

なお、自由単位については現行どおり系列指定を行わない。

##### 2-2. 指定系列ごとの必要単位数

これについては次のように定める。

人文学部：社会科学系 4 単位以上、自然科学系 4 単位以上

教育学部：人文科学系 2 単位以上、社会科学系 2 単位以上、自然科学系 2 単位以上

経済学部：人文科学系 4 単位以上、自然科学系 4 単位以上

理学部、工学部：人文科学系 4 単位以上・社会科学系 4 単位以上

#### 3. 教養原論及び総合科目における授業科目等の見直し

##### 3-1. 主題

人文科学系の「心理と教育」を「こころの科学」と「現代と教育」とに分割する

##### 3-2. 授業科目

##### 3-2-1. 教養原論

###### (1) 人文科学系

「教育と社会」を「現代と教育」に名称変更する

###### (2) 社会科学系

「現代社会論Ⅰ」、「現代社会論Ⅱ」を「現代社会論」に統合する

「国家と政治」を「国家と市民」に名称変更する

「地域の社会と文化」、「富山の経済と社会」を「地域の経済と社会・文化」に統合する

###### (3) 自然科学系

「生命のしくみ」、「生命と環境」を「生命の世界」に統合する

「自然と数理」、「社会と数理」、「情報と数理」を「自然と情報の数理」と「社会と情報の数理」とに改編する

「機械の力学」、「生産のための技術」、「電気・電子機器」、「材料の科学」を「技術の世界」と「材料の科学」とに改編する

「園芸」を廃止する

##### 3-2-2. 総合科目

「生活と福祉」、「人権と差別」を「人権と福祉」に統合する

「トータルコミュニケーション」を新設する  
「総合科目特殊講座」を新設する



## 4. 実施組織の見直し

## 4-1. 「総合科目教科部」及び「総合科目分科会」の新設

新たに「総合科目教科部」及び「総合科目分科会」を設け、それに伴って「教養教育委員会内規」(以下「内規」と呼ぶ)第6条第2項でいう「重ねて所属することができる教科部」として、現行の「情報処理教科部」及び「言語表現教科部」に「総合科目教科部」を加える。

なお、「内規」第6条第1項で規定する教科部への所属は、上記3教科部に重ねて所属する教官についても明示するものとする。

## 4-2. 総合科目部会及び総合科目分科会の委員の選出方法

「総合科目教科部」から選出するものとする。

## 4-3. 人文科学系教科部の改編

「心理と教育教科部」を「こころの科学教科部」と「現代と教育教科部」とに分割する。

## 4-4. 「教養原論演習等連絡会」(以下「連絡会」と呼ぶ)の組織上の位置づけ

教養原論演習及びコロキアムの円滑な実施のため、また「連絡会」の組織上の位置づけを明確にするため、「連絡会」より実施専門委員会に委員を送るものとする。

## 4-5. 専門基礎科目部会の廃止

専門基礎科目は各学部で実施する態勢が十分に整ったので、専門基礎科目部会を廃止する。

## 5. 教養原論及び総合科目の実施基本計画の策定

選択科目単位数及び履修方法の見直しに伴って、平成9年度以降の年間開講予定コマ数を以下のとおり設定する。(ただし、所属教官数の変化等に伴う小幅の変更はありうる。)

## 5-1. 教養原論

- (1) 人文科学系: 54コマ(昼50コマ, 夜4コマ)
- (2) 社会科学系: 34コマ(昼32コマ, 夜2コマ)
- (3) 自然科学系: 34コマ(昼30コマ, 夜4コマ)

## 5-2. 総合科目: 30コマ程度

6. 総合科目の開講時期(経済学部夜間主コースを除く)  
現行では3~6期に開講しているが、これを2~4期に変更する。

なお、2期については教養原論の全学向け時間帯に教養原論と重ねて開講することとする。

## 7. 1年次の教養原論の一期当たり履修可能科目数制限の緩和(経済学部夜間主コースを除く)

一期当たり2科目までという現行の履修制限を緩和して、一期当たり3科目まで履修可能とする。

なお、教養原論については2期における再履修は認めない。(**「履修規則」第7条第2項関連**)

教養原論演習についても当面はこの新しい履修制限の枠内で履修させることとする。ただし、枠の拡大にもかかわらず履修者数が増大しない場合には、教養原論3科目枠とは別に教養原論演習の履修を認めることの可否について検討することとする。

## 8. 保健体育科目の各期に履修できる単位数(経済学部夜間主コースを除く)

「履修規則」別表3を以下のように手直しする。

- (1) 学期毎の履修可能単位数の表示を止め、学年毎の履修可能単位数のみを表示する。
- (2) 1年次の野外実習の単位については、「履修規則」第7条第1項で言う「各期に履修できる単位数」とは別に取得することができるものとする。

## 9. シラバスの作成と様式化

平成9年度よりシラバスを作成することとして、その様式化については、以下の3点を基本方針とし、実施専門委員会で検討する。

- (1) 学生の利用しやすいものにする
- (2) 大部のものにはしない
- (3) 部会ごとに科目の特性に応じた様式化を工夫する

## 10. 1クラス受講者数が著しく多い場合の措置

この場合、受講者数制限を可とし、その必要性及び方法等については、履修登録の時期や方法とも絡めて、実施専門委員会で検討することとする。

## 学 内 諸 報

## ＝ 「高等学校長との懇談会」を開催 ＝

去る10月3日（木）高志会館において、小黒学長をはじめ学生部長、各学部長及び菊地事務局長が出席して、富山、石川両県の高等学校長との懇談会を開催しました。

当日は、学長の挨拶、学生部長の本学概要説明に続き、各学部長から学部の現状や課題等について説明がありました。

その後、休憩をはさんで「多様化・個性化する高等学校教育と大学の対応」を今年度のテーマとして、活発な意見交換があり、本学に対する要望等が出されました。

懇談会終了後、懇親会が催され、大学側と高等学校長との輪が幾つも出来和やかな雰囲気の中で懇親を深めました。



## 世 界 遺 産 な ど に 歓 声！

－ 外国人留学生と教職員との懇談会（見学旅行）を実施 －

去る10月11日（金）、12日（土）の1泊2日の日程で、外国人留学生と教職員との懇談会（見学旅行）を実施しました。

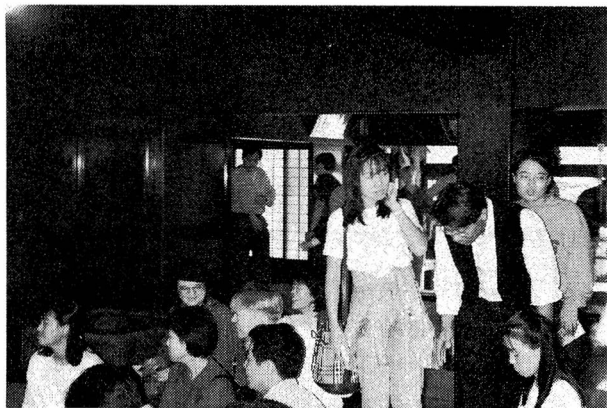
留学生・教職員合わせて78人の参加者があり、第1日は世界遺産に登録された越中五箇山を訪ね、相倉合掌集落（国・史跡）や加賀藩時代の越中豪族が建てた五箇山地方最大の合掌造り岩瀬家（国・重文）を見学し、どこなくなつかしい古里の温もりと古老の話に歴史の重みを感じていました。

宿泊先である国立乗鞍青年の家の夕食懇談会では、同所長から雄大な乗鞍の自然についての話の後、10月に入

学した留学生の自己紹介、マジック、フォークダンスなどに興じ、学内では、味わえない親睦・交流が行われました。

第2日目には、飛騨古川の起こし太鼓の里を訪ね、歴史の刻まれた山車やからくり人形、また6面マルチメディア立体画像を通して見る古川祭りの興奮と感動に驚嘆と歓声が沸き上がりました。

今回の懇談会（見学旅行）を通して、教職員・留学生間の相互理解が一層深まると共に、日本理解に大きな意義がありました。



▲ 五箇山岩瀬家を見学する留学生



▲ 夕食懇談会で歓談する留学生と教職員

## 本部自衛消防隊が消防訓練を実施

去る10月23日（水）午後、本部自衛消防隊による消防訓練が行われました。

当日は、事務局 5 階からの火災発生を想定し、自衛消防隊消火班を中心として屋内消火栓を使用した放水訓練

と特に女性職員を対象とした消火器による初期消火訓練が実施され、また、専門技術者から消火栓や消火器の基本的な取扱い技術を習得するなど職員の防災意識の高揚が図られました。



▲ 消火栓による放水訓練



▲ 消火器による消火訓練

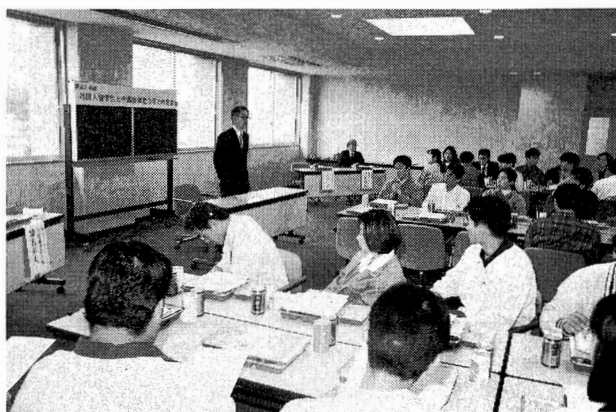
## － 外国人留学生と学部指導教官との懇談会（経済学部）－

経済学部では、昨年に引き続き10月16日（水）同学部大会議室において外国人留学生と学部指導教官との懇談会を開催しました。

当日は、富山ロータリークラブから城石国際親善委員長、四十万幹事、また名古屋入国管理局から塚原留学・研修審査部門統括審査官を招待し、また、中国、マレーシア、台湾、韓国等の外国人留学生と関係教職員合わせて約60名の参加がありました。

懇談会は、丹羽学部長の開催挨拶に続き、城石国際親善委員長及び四十万幹事からロータリークラブの活動や国際交流の現状について説明があり、また、昼食後は、塚原統括審査官から全学の留学生を対象とした特別講演「最近の外国人留学生に関する諸問題」があり、終始和やかに歓談しました。

今回の懇談会では、留学生、関係教職員及び地域住民との相互理解を更に深めると共に、留学生間の交流促進を図ることができ、大変有意義な懇談会となりました。



▲ 懇談会で挨拶する丹羽学部長

## 学 内 レ ク リ エ ー シ ョ ン

### ＜ 釣 大 会 ＞

本学レクリエーション委員会倶楽部会釣班，文部省共済組合富山大学支部共催による平成8年度学内釣大会が，去る10月12日（土）午後1時から富山新港東防波堤において実施されました。当日は時折小雨も降る天候でしたが，熱気にあふれる20名の太公望が日頃の腕を競いました。

なお，成績は次のとおりです。

#### 入 賞 者

- 一 位    田 中 祥 男（経理課）
- 二 位    川 崎 博 幸（工学部）
- 三 位    竹 田 充 輝（施設課）

### ＜ ビーチボール大会 ＞

本学レクリエーション委員会体育部会排球班，文部省共済組合富山大学支部共催による平成8年度学内ビーチボール大会が，去る10月26日（土）本学第3体育館において実施されました。

大会は，9チーム約50名の参加者を得て行われ，予選リーグ，決勝トーナメントを通し熱戦が繰りひろげられました。

なお，成績は次のとおりです。

- 優    勝    施設課チーム
- 準 優 勝    教育学部チーム
- 3    位    人文学部・理学部チーム
- 3    位    工学部チーム

### ＜ ゴ ル フ 大 会 ＞

本学レクリエーション委員会体育部会ゴルフ班，文部省共済組合富山大学支部共催による第23回富山大学ゴルフ大会が，去る10月31日（木）太閤山カントリークラブにおいて実施されました。

当日は風の強い悪コンディションにもかかわらず，27名の参加者はスタートホールから豪快なティーショット（OB）を放つなど，熱心なプレーが繰りひろげられました。

なお，成績は次のとおりです。

|     |                | (ネット) | (グロス)      | (ハンデ) |
|-----|----------------|-------|------------|-------|
| 優 勝 | 山岸長幸(人文学部・理学部) | 72.6  | 93 (46・47) | 20.4  |
| 準優勝 | 田中輝和(庶務部)      | 72.6  | 99 (49・50) | 26.4  |
| 3 位 | 山本悦子(経済学部)     | 72.8  | 98 (47・51) | 25.2  |
| B G | 有沢隆一(教育学部)     |       | 87 (42・45) |       |



海

外

渡

航

者

| 渡航の種類 | 所 属   | 職   | 氏 名   | 渡 航 先 国       | 目 的  | 期 間                         |
|-------|-------|-----|-------|---------------|--|-----------------------------|
| 外国出張  | 経済学部  | 教 授 | 木幡 伸二 | 中 華 人 民 共 和 国 | 「対岸諸国の国際化政策の現状と課題に関する調査研究」に関する現地調査         | 8. 10. 5<br>/<br>8. 10. 12  |
|       | 〃     | 助教授 | 酒井 富夫 | 〃             | 〃  | 〃                           |
|       | 教育学部  | 助教授 | 徳橋 曜  | イ タ リ ア       | 「ルネサンス期イタリア都市のソシアビリティの変化」の研究               | 8. 10. 9<br>/<br>9. 8. 10   |
|       | 経済学部  | 助教授 | 澤井 啓  | 大 韓 民 国       | 「韓国における商事仲裁の実態－特に知的所有権紛争について－」に関する研究       | 8. 10. 9<br>/<br>8. 10. 13  |
|       | 〃     | 教 授 | 菊田 健作 | アメリカ合衆国       | 重み付けられたグラフ上の探索ゲームとその応用に関する共同研究             | 8. 10. 21<br>/<br>8. 11. 4  |
| 海外研修  | 経済学部  | 教 授 | 武井 勲  | マ レ イ シ ア     | 第1回太平洋・アジアリスク・マネジメント国際会議に出席，調査             | 8. 10. 1<br>/<br>8. 10. 5   |
|       | 〃     | 教 授 | 武井 勲  | ロ シ ア 連 邦     | 「日本のリスク・マネジメント及び保険の学問並びに実務の発展」に関するシンポジウム開催 | 8. 10. 9<br>/<br>8. 10. 16  |
|       | 人文学部  | 教 授 | 藤本 幸夫 | 大 韓 民 国       | 朝鮮古刊本調査及び海外韓国語研究状況をめぐる国際会議に出席，研究発表         | 8. 10. 12<br>/<br>8. 10. 16 |
|       | 理 学 部 | 教 授 | 桜井 醇児 | フ ラ ン ス       | 研究打合せ，セミナーに出席                              | 8. 10. 13<br>/<br>8. 10. 25 |
|       | 工 学 部 | 教 授 | 大住 剛  | 中 華 人 民 共 和 国 | 第8回中国力学学会流体制御システム，ロボット学術会議に出席，研究発表，資料収集    | 8. 10. 15<br>/<br>8. 10. 22 |
|       | 教育学部  | 助教授 | 木川 栄一 | アメリカ合衆国       | 「海洋地殻の磁化」等のコンファレンスに出席                      | 8. 10. 17<br>/<br>8. 10. 26 |
|       | 理 学 部 | 助教授 | 大藤 茂  | 大 韓 民 国       | 韓国南部の先カンブリア時代変成岩類の野外調査                     | 8. 10. 28<br>/<br>8. 11. 4  |

# (外) (国) (人) (来) (訪) (者)

| 氏 名<br>( 国 籍 )   | 本国における<br>所属機関・職名  | 来 学 目 的                      | 本 学 受 入 れ 先        | 期 間                     |
|--|--|------------------------------|--------------------|-------------------------|
| チュカーフキナ,<br>エンマ・パンテレイモノヴァ<br>(ロシア連邦)<br><br>ウリヤーノワ,<br>ミーナ・ヤコヴレナ<br>(ロシア連邦)<br><br>パスベロフ,<br>オレーグ・ウラジーミロヴィチ<br>(ロシア連邦) | イルクーツク国立<br>外国語教育大学<br>学 長<br><br>イルクーツク国立<br>外国語教育大学<br>英 語 学 部 長<br><br>イルクーツク国立<br>外国語教育大学<br>副学長(国際関係担当) | 表 敬 ・ 視 察                    | 人文学部長<br>小 澤 浩     | 8.10.9<br>/<br>8.10.16  |
| ベルコーヴィチ,<br>イリーナ・アルノルドヴァ<br>(ロシア連邦)<br><br>キンジャロワ,<br>マリーヤ・アレクサンドロヴァ<br>(ロシア連邦)  | イルクーツク国立<br>外国語教育大学<br>英 語 学 部 教 師<br><br>イルクーツク国立<br>外国語教育大学<br>英 語 学 部 教 師                                 | 学 術 交 流                      | 人文学部・教授<br>矢 澤 英 一 | 8.10.16<br>/<br>9.10.8  |
| Vanhecke Lieven<br>(ベルギー)  | ルーヴァン・<br>カソリック大学<br>教 授   | 共 同 研 究<br>及 び 講 演           | 理学部・教授<br>渡 邊 義 之  | 8.10.18<br>/<br>8.10.25 |
| J. T. Hagstrum<br>(アメリカ)   | 米 国 地 質 調 査 所<br>主 任 研 究 員   | 中生代チャートの古地磁気<br>学的研究に関する研究連絡 | 理学部・教授<br>広 岡 公 夫  | 8.10.23<br>/<br>8.10.26 |
| P. Wasilewski<br>(アメリカ)  | NASA ゴダードスペース<br>フライトセンター<br>主 任 研 究 員   | 岩石磁気研究に関する研究<br>連絡           | 理学部・助教授<br>酒 井 英 男 | 8.10.25<br>/<br>8.10.26 |

# 職 員 消 息

## 〈住 所 変 更〉

| 部 局 名    | 官 職               | 氏 名     |
|----------|-------------------|---------|
| 人 文 学 部  | 講 師<br>(国際文化関係論)  | 山 本 富美子 |
| 教 育 学 部  | 助 教 授<br>(学校教育)   | 廣 田 忍   |
| 経 済 学 部  | 助 教 授<br>(経営学)    | 森 岡 裕   |
| 理 学 部    | 助 手<br>(物性物理学)    | 池 本 弘 之 |
| 人文学部・理学部 | 文部事務官<br>(庶務係)    | 新 井 慶 子 |
| 工 学 部    | 助 手<br>(物性デバイス工学) | 中 茂 樹   |

## 〈住居表示変更〉

| 部 局 名 | 官 職     | 氏 名     |
|-------|---------|---------|
| 工 学 部 | 文 部 技 官 | 二 宮 英 治 |
| 工 学 部 | 文 部 技 官 | 井 澤 真由美 |

## 〈新任者住所〉

| 部 局 名   | 官 職            | 氏 名     |
|---------|----------------|---------|
| 経 済 学 部 | 助 手<br>(比較経済論) | 吉 田 竜 司 |

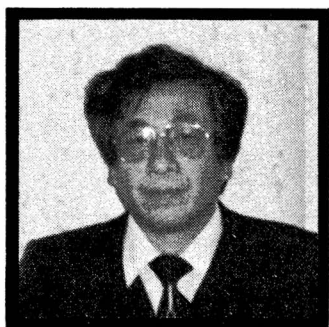
## 〈改 姓〉

| 部 局 名    | 官 職       | 氏 名     | 旧 姓 |
|----------|-----------|---------|-----|
| 人文学部・理学部 | 文 部 事 務 官 | 新 井 慶 子 | 森   |

## 訃

## 報

## 富山大学附属図書館情報管理課雑誌情報係長 田中大四郎氏逝去



附属図書館情報管理課雑誌情報係長田中大四郎氏は、平成7年12月から病気療養中のところ、平成8年10月26日に逝去されました。享年51歳

田中係長は、昭和39年6月富山大学附属図書館に勤務され、同49年4月附属図書館工学部分館、同56年1月富山工業高等専門学校学生課図書係長に昇任、同61年4月富山大学附属図書館閲覧係長、平成4年4月受入係長、同7年4月附属図書館情報管理課雑誌情報係長に配置換となり、この間32年有余の永きにわたり国立学校の図書館職員として持ち前の適切な判断力と責

任感をもって職務を全うされ、常に本学の中堅職員として上司・同僚から信望が厚く、多くの職員から慕われておりました。

さらに、平成9年2月に竣工予定の附属図書館建物新営に伴い、大学図書館としての機能整備と本学の発展に御尽力いただけるものと期待されていただけに、その御逝去が惜しめます。

ここに、同氏の御冥福を祈り謹んで哀悼の意を表します。



# 主 要 行 事

## 本 部

- 10月1日～3日 平成8年度厚生補導事務研修会（オリセン）
- 1日～7日 国家公務員健康週間  
超過勤務縮減キャンペーン
- 2日 国立大学協会第6常置委員会（国大協会議室）  
富山共済組合連絡協議会ソフトボール大会
- 3日 高等学校長協会と富山大学との懇談会（高志会館）
- 7日 第3回自己点検評価委員会管理運営専門委員会
- 8日 第4回教養教育委員会実施専門委員会
- 8日～9日 第17回全国国立大学学生部長協議会  
（徳島大学 阿波観光ホテル）
- 11日～12日 外国人留学生と教職員との懇談会  
（国立乗鞍青年の家）
- 12日 学内釣大会（富山新港東防波堤）  
共済組合レクリエーション事業（立山）
- 14日～18日 東海・北陸地区国立学校等会計事務職員研修  
（中津川研修センター）  
東海・北陸地区国立学校事務電算化担当職員  
B研修（名古屋大学）
- 15日 交通安全一斉指導
- 16日 東海・北陸地区国立大学学生部次長・課長会議（名古屋大学）
- 14日～12月17日 英会話研修（毎週月・火曜日）
- 17日 第56回東海・北陸地区国立大学等施設部課長  
会議（豊橋技術科学大学）
- 17日～18日 第17回国立大学等研究協力担当部課長会議  
（福岡リーセントホテル）  
北陸財務局国有財産実地監査
- 21日～22日 東海・北陸地区国立大学事務局長会議  
（岡崎国立共同研究機構）
- 21日～24日 国立大学等国際交流担当職員研修（オリセン）
- 22日～25日 北陸地区国立学校等監督者研修  
（国立立山少年自然の家）
- 23日 第37回北陸地区大学学生部懇談会  
（福井県立大学）  
本部自衛消防隊消化訓練
- 23日～24日 平成8年度長期給付実務研修会（KKR加賀）

- 24日～25日 第32回12大学教養部長・事務長連絡会議  
（鹿児島大学）  
全国国立大学理学系学長会議（鹿児島大学）  
第34回全国厚生補導研究集会（秋田大学）
- 26日 学内ビーチボール大会
- 28日 第2回総合情報処理センター広報研修専門  
委員会
- 28日～11月1日 中部地区中堅係員研修（人事院中部事務局）
- 29日 北陸地区国立大学等人事担当課長会議  
（富山大学）  
北陸地区予算事務担当者連絡会（富山大学）
- 28日～11月1日 国立学校等課長補佐級研修（オリセン）
- 31日 国立大学学生部次長協議会（鹿児島大学）  
国立大学等人事担当課長会議連絡会議（文部  
省）  
第3回教養教育委員会企画専門委員会  
第1回入学試験実施委員会電子計算機処理専  
門委員会  
学内ゴルフ大会（太閤山カントリークラブ）
- 31日～11月1日 平成8年度東海・北陸地区国立学校等施設系  
職員研修会（辰口共同研修センター）

## 人 文 学 部

- 10月8日 独立大学院（人文・経済合同）委員会
- 9日 教授会
- 14日 後学期授業開始
- 16日 学部教務委員会  
予算委員会
- 18日 学部将来計画委員会
- 21日 学部図書委員会
- 24日～25日 第45回国立17大学人文系学部長会議及び  
第19回事務長会議（福島大学）
- 30日 教授会  
教授会（人事）

## 教 育 学 部

- 10月2日 物品定期検査  
学部就職指導委員会

- 7日 附属学校運営委員会  
附属教育実践研究指導センター運営委員会
- 9日 学部学生生活委員会  
学部教務委員会  
教授会  
人事教授会
- 14日 後学期授業開始
- 14日～15日 平成8年度日本教育大学協会北陸地区会学長・副学長・学部長・学部教員合同会議（信州大学）
- 15日 平成8年度「教員の資質向上地区連絡協議会」（静岡県総合教育センター）
- 16日 教育学研究科委員会小委員会  
教育学研究科委員会  
全国国立大学附属学校北信越地区副校園長会（「ホテル国際21」長野県）
- 17日～18日 日本教育大学協会・全国国立大学附属学校連盟・全国国立大学附属学校PTA連合会北信越地区協議会（「ホテル国際21」長野県）
- 21日 学部図書委員会
- 23日 平成9年度教育学研究科入学試験
- 24日～25日 平成8年度秋季全国国立大学教育学部長会議（佐賀大学）
- 29日 学部予算委員会
- 30日 教育学研究科委員会小委員会  
教育学研究科委員会
- 31日 学部紀要編集委員会  
平成9年度教育学研究科入学試験合格者発表

## 経済学部

- 10月2日 人事教授会  
大学院経済学研究科委員会  
教授会
- 8日 学部教務委員会  
学部入学方法検討委員会  
独立大学院博士課程設置に伴う合同打合せ会
- 9日 学部学生生活委員会
- 11日 学部就職指導委員会
- 14日 日本海経済研究所運営委員会  
後学期授業開始
- 15日 各種委員選考委員会（持ち回り）
- 16日 外国人留学生と学部指導教官等との懇談会  
人事教授会

大学院経済学研究科委員会  
教授会

- 17日 学部図書委員会  
広報委員会

17日～18日 国立12大学経済学部・経営学部教官懇談会（福島大学）

21日 大学院経済学研究科委員会小委員会

- 22日 学部教務委員会  
学部留学生委員会

24日 学部将来構想検討委員会

25日 夜間主コース運営委員会

29日 学部教務委員会

30日 学部図書委員会

財務委員会  
学部施設整備委員会  
コンピュータ管理運営委員会  
論集委員会

日本海経済研究所運営委員会

- 31日 各種委員選考委員会（持ち回り）  
学部就職指導委員会

## 理学部

- 10月2日 学科長会議
- 7日 学部学生生活委員会  
学部教務委員会
- 9日 大学院理学研究科委員会  
教授会  
人事教授会
- 14日 後学期授業開始  
動物実験委員会（持ち回り）
- 16日 学部自己点検評価委員会  
予算委員会
- 18日 学部入試改善委員会
- 24日 国立22大学理学部長会議（KKR HOTEL TOKYO）
- 25日 第14回国立大学理学部長会議（KKR HOTEL TOKYO）
- 31日 学部就職指導委員会

## 工学部

- 10月2日 学部運営委員会
- 8日 工場運営委員会

- 11日 紀要委員会  
14日 後学期授業開始  
入試検討委員会  
15日 第3回機種選定委員会  
(コンピュータ計測制御式精密万能試験機)  
16日 教官要覧編集委員会  
21日 外国人留学生委員会  
学部運営委員会  
23日 教授会  
専任教授会  
博士後期課程委員会  
24日～25日 第49回国立大学工学系事務長会議(三重大学)  
29日 工場運営委員会  
31日 北陸信越工学教育協会第105回理事会(金沢大学)  
第29回北陸信越地区国立大学工学部長会議  
(金沢大学)

**地域共同研究センター**

- 10月3日～4日 第8回国立大学共同研究センター長会議  
(東京農工大学)  
9月30日～10月4日 先端技術研修(ファインメカトロニクス)  
18日 大学院生教育講座

**保健管理センター**

- 10月9日 定期健康診断  
11日 定期健康診断  
15日 定期健康診断  
17日 定期健康診断・婦人科検診

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印 刷 所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電 話 (24) 1755(代)